



日本救急救命学会

# JSELS newsletter

第6号

令和4年9月1日

Japanese Society for emergency life-saving

一般社団法人日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区中野2-2-3 (株)へるす出版内  
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

## 「一般社団法人日本救急救命学会」の商標登録について

日本救急救命学会理事長  
脇田 佳典

平素は学会活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、ご存知のとおり2021年12月



18日に本学会の名称を「日本救急救命学会」とし、救急救命士の皆様と救急救命士による学問の構築に向け、自律のため力を合わせて進んできました。そして、その活動を継続することを約束し、それを担保するために名称の商標登録を行いました。今後とも引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

【商標】一般社団法人日本救急救命学会  
【標準文字商標】一般社団法人日本救急救命学会  
【称呼】ニッポンキューキューキューメーガツカイ、ニッポンキューキューキューメー、キューキューキューメーガツカイ、キューキューキューメー  
【権利者氏名又は名称】一般社団法人日本救急救命学会  
【商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務】救急救命及び救急医療に関する知識の教授、救急救命及び救急医療に関する学術集会・セミナー・研修会・ワークショップ・講演会の企画・運営又は開催、救急救命及び救急医療に関する書籍の制作、救急救命及び救急医療用ビデオの制作（映画・放送番組・広告用のものを除く。）、救急救命及び救急医療に関する電子出版物の提供  
救急救命及び救急医療に関する学術又は技術の研究、救急救命及び救急医療に関する論文作成の助言・作成補助、救急救命及び救急医療に関する電子計算機用プログラムの設計・作成又は提供  
救急救命及び救急医療に関する情報の提供

## 会員募集中

名称 **一般社団法人日本救急救命学会**  
設立年月日 2014年5月30日  
主な活動  
・ 学術集会の開催  
・ 会員向けワークショップの開催  
・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発  
・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行  
・ 国内外における関係諸団体との交流  
・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣  
・ JPTEC協議会への役員の派遣  
・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分  
①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。  
②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。

③名誉会員本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。  
④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。

会員登録  
**入会金5,000円 年会費5,000円**  
(協賛会員団体50,000円/口)  
会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、入会金・年会費をお振り込み下さい。  
お振込が確認できた段階で会員登録致します。  
会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいませよう、お願い申し上げます。

日本救急救命学会  
会員申し込み専用フォーム





## ●西岡 和男

日本救急救命学会教育研修委員長／評議員

依頼者が救急講習に求めている成果は、受講する人達の思いと同じものとはかぎりません。依頼者の話の中から、受講する人たちの「本音」を見つけてあげることができれば、何をどのように提供すると効果があるか具体的な糸口をみつけることができます。

救急講習を指導する立場で救急講習の流れを考えてみると、最初に応急手当の重要性を話して、心肺蘇生法の話をして、実際にやってもらって・・・というような形がほとんどになっていないのでしょうか。救急講習の依頼者とお話をしている「救急講習はこういうもの」というような既成概念があるように感じます。指導者のなかには「こうしなければならぬ」という考えの方もいらっしゃいます。もちろん、上級救命講習など公式なスタイルの講習では、一定のプログラムや行動目標があり、受講者も講習の意義を理解し目標をもって受講される人たちですので、自由奔放に講習を展開するというわけにはいかないということも正しい考え方だと思います。

### ◆受講者の声

高齢者が集まる講習会で「心肺蘇生法はする方じゃなくて、してもら方だねえ」という声を聞いたことはありませんか？ ユーモアのある発言にも聞こえますが、場所も人も違う人たちの中から、同じような声を聞くということは「こんなこと教えられても実際に立つのか？」「他に学べることはないのか」という本音の吐露が隠れている。そのように考えることが大切です。住民が必要と思う内容は、時代や社会背景などによって変化しています。昭和50年台初頭は、心肺蘇生法というものがあるということを知っている人が少なく、まずそのことを普及する必要がありました。消防を中心として沢山の救急講習が提供されてきて、今では多くの人がCPRのことを知っています。AEDは、あっという間に周知が進んできました。ところがその半面、「救急講習は、人形が出てきて心肺蘇生法を教えてくれるもの」という概念が住民にも指導者にも生まれているように思います。

### ◆講習会の概念を捨ててみる

依頼者から話を聞くときには、これまでの講習会の概念を捨てて耳を傾けるということがとても大切なように思います。例えば、受講者の人たちは、講習会に対してどんな期待をもって集まっているか、あるいは期待の熱量。何かグループであれば、そのグループには、どのようなポリシーや目的があって、日ごろどのような活動をしているのか。であればどのような応急手当や予防の項目をチョイスすると良いかを考えながら話を進めてみるのです。心肺蘇生のガイドラインには、2015になって初めてファーストエイドの章が追加されています。しかし、これらの項目を核とした講習手法について研究されているものを目にするのはほとんどありません。住民にとって重要な知識や技術のネタはガイドラインの中にも見つけることができます。

### ◆楽しく世間話でいい

ちょっとだけ注意したいのは、いろいろな情報を得たいばかりに前のめりに根掘り葉掘り聞いてしまうのは、依頼者にも引かれてしまう原因になります。つい

ついしゃべってしまうという空気感と考えれば、世間話のように進められたら理想だと思います。

私は、最初に「受講する人たちに喜んで帰ってもらえるように、私もいろいろ工夫してみます。」ということ伝えるようにしています。多くの依頼者にとって、受講者に喜んでもらえるということは何より大きなベネフィットです。依頼者の協力者になりたいというこちらの姿勢を初めに提案することは依頼者にとっては渡りに船なのです。

### ◆いろんな提案をしてみる

まず、最低限の制約事項は超えないように注意しましょう。制約になりやすいのは、つかえる時間と場所と人数です。どんなに良いアイデアがあっても、この制約事項の中にフィットしない内容を成功させるのはとても難しいからです。例えば、依頼者が心肺蘇生法を期待しているとしても、人数が多く場所も狭く時間も短い条件のもとでは、CPRの1から10までを伝えることは物理的に難しいこともあります。そのまま承諾してしまつては、講習を組み立てるのは容易ではありません。だからといって「それは難しいです」と言ってしまうのは話の展開にも急ブレーキになってしまいます。まずは「なるほど、大事なことですよね、とても良い趣旨だと思います」というように受け止めましょう。話を進める中では、グループについて知らないことがあれば積極的に尋ねて、グループの強みには尊敬を示すなどグループの活動に興味を示すことも非常に大切です。そうした話を挟みながら、過去に救急講習を計画されたことがあるか。その時の印象や参加者の反応はどうだったか、今回の講習への期待、など背景にありそうな話を聞きながら、それにフィットすると思われる内容を提案しながら講習内容を再構築してゆくと良いと思います。

### ◆提案のヒント

では、これまでにあまり提供していない講習内容を提案するための基礎知識は、どんなところから得ることができるのでしょうか。救急講習の聖書としては、長い間「救急蘇生法の指針」が中心となってきたことから、一般市民を対象としたファーストエイドを網羅したスタンダードな書物を目にするのは少なくなりました。国内でオーソライズされた内容によって改訂が重ねられてきた歴史のあるテキストは、唯一、日本赤十字社の救急法関連のテキストです。一般市民に対する基本的な内容が整理されているので是非理解しておきたい本の一つです。

その他、新しい医学のニュースや健康づくりの話題については、NHKの「きょうの健康」がお勧めです。一般市民が興味を惹かれる内容がとてもわかりやすく書かれているので、講習のネタとしてだけではなく指導方法を磨くヒントとしても活用できます。

読者の皆さんも、お薦めの図書や資料をご存じのかたがいらっしゃると幸いです。ニュースレターや学会員のFacebook、メーリングリストにご意見ご紹介ください。

ご意見ご感想をお待ちしています。

teate.inst@gmail.com

# 第1回 学会発表者の集い開催報告

●鈴木健介

日本救急救命学会副理事長  
国内外交流委員会 委員長

2022年7月28日（木）にZOOMにて、第1回学会発表者の集い@国内外交流委員会を開催しましたのでご報告させていただきます。

## 1. 学会発表者の集いの開催目的

救急救命士が学会発表や研究する上での課題を明らかにすることを目的としました。学会発表を実際にしたことがある方が、いつから準備をはじめ、何を参考にしたのか？などをフリーディスカッションしました。

## 2. 学会とは？研究者とは？

学会や研究と聞くと、非常に敷居が高い印象があります。そこで、用語を調べて整理してみました。

### 【学会とは】

学会とは研究者の研究成果を発表し、他の研究者・専門家と議論や意見交換を行う場。

### 【研究とは】

物事を深く考えたり、詳しく調べたりして、真理、理論、事実などを明らかにすること。物事を学問的に深く考え、調べ、明らかにすること。

### 【研究員】

研究機関において研究活動に従事する職員または構成員及びその役職（組織、職員・役職）。

### 【研究者】

研究に取り組む個人を指し、自称可能。

つまり、物事を深く考え、調べ、明らかにしようとしたときから、研究者と名乗ることができます。そのため、本日から、現在から研究者と名乗れます。

## 3. 研究を行うためのコツと課題

フリーディスカッションを通して、研究を思いつぐためのコツや研究を実践するための課題が明らかになりました。

### 【研究を思いつぐには？】

日常の中で疑問に思ったことをメモするとよいです。また、学会に参加し、様々な発表を聞いて、参考にするとよいです。年間のスケジュールを確認し、いつ、どこで、どのような学会があるかを確認しておくるとよいです。

### 【研究を実践するための課題】

一人で行うには限界があります。また、突然行うの

も難しいです。普段から計画的に用意しておく必要があります。研究アイデアを形にするために、研究計画の作り方、倫理委員会での承認、データの整理など、今後国内外交流委員会でサポートできる環境を検討したいと思います。まずは、学会発表の解説の場、どう考えたか共有する場を作り、将来的に、研究サポート体制を構築したいと考えています。

## 4. 今後の国内外交流委員会

会員の皆様にはオンデマンド配信をしています。また、次回も定期的に開催していきたいと考えています。気軽に参加できる環境にすることを、1番に考えています。ぜひ、飲食しながらご自由にご参加ください。

### 国内外交流委員会

本学会の目的に関する国内外との関係機関との連携について検討を行うことを目的に設置されました。

#### 【国内外交流委員会の短期目標】

1. 日本蘇生協議会（JRC）への加入

2. 学生会の立ち上げ

(ア) メディカルラリーの開催（多職種連携）

(イ) 医学生や看護学生が救急救命士のことを学ぶ機会（多職種連携）

(ウ) 救急活動での倫理教育

3. 国内の救急救命士に関連する研究会や勉強会との連携

(ア) 救急救命士主体で病院前救護の教育コースを作成

(イ) 国内の消防本部との交流会

(ウ) 国内のEMS研究会等との連携

(エ) 学会発表の仕方・スライドの作り方・研究の仕方の勉強会

(オ) 災害時の医療搬送についての意見交換やガイドライン等の提案

4. 他国との学会連携

海外の事情を知る（海外のプロトコル・最新のエビデンス）

5. その他

救急救命士の地位向上・幹部等の研修

2022年度第1回理事会・定時社員総会 報告書類  
1-08より抜粋

## 第8回 日本救急救命学会学術集会のお知らせ

開催日時：令和4年10月22日（土）9時00分～16時00分

会場：京都橘大学（京都市山科区大宅山田町34）

方式：対面およびWEBによる中継 Zoom ウェビナー

テーマ：前へ～救急救命士の進むべき道～

会長：関根和弘（京都橘大学健康科学部救急救命学科、京都橘大学大学院健康科学研究科）

### ■9:00 会長講演

演者：第8回日本救急救命学会 会長 関根和弘（京都橘大学）

座長：第9回日本救急救命学会 会長 中川貴仁（弘前医療福祉大学短期大学部）

### ■9:15 教育講演 救急救命士の研究手法

演者：平出敦（京都橘大学健康科学部救急救命学科教授）

座長：脇田佳典（日本救急救命学会 代表理事）

### ■10:30 パネルディスカッション①（救急救命士の研究）

テーマ：「前へ」進むための手法

救急救命士による研究手法各機関の取り組み

座長：一柳 保（高野町消防本部）、  
北村 浩一（石橋地区消防組合）

パネリストと演題：

▷バッシュからアクティブに～学会発表、論文作成及び医学的研究を積極的に行うためには～ 杉谷宏樹（日高広域消防組合）

▷出雲市消防本部における救急救命士の研究に対する意識調査 吉井友和（出雲市消防本部）

▷救急業務に携わる者が調査研究に強い関心を抱く手掛かり 山本健太郎（東洋大学大学院ライフデザイン学研究科博士後期課程）

▷都内三次医療機関に勤務する大学院博士課程救急救命士の視点から 北野信之介（日本医科大学多摩永山病院）

▷VR導入への道のり～未知なる機材の活用法と道なるカリキュラムの創造～ 中島秀明（湘央学園）

### ■13:00 一般演題

座長：澤田 仁（京都橘大学）、吉井友和（出雲市消防本部）

演者と演題：

▷2021JPTEC 学術部会活動報告書 若松淳（弘前医療福祉大学）

▷救急救命士養成課程における静脈路確保の成否に関する因子の検討 桂原貴志（国士舘大学大学院救急システム研究科）

▷救急救命士養成課程の学生におけるパーソナリティ特性の傾向 武藤好美（明治国際医療大学）

▷医療教育におけるロールモデルの概念＝我が国の先行研究から＝ 高橋 司（明治国際医療大学）

▷救急救命士法改正における相澤病院の取り組み 吉村祐平（相澤病院）

### ■14:30 パネルディスカッション②（病院救急救命士とMCをつなぐ活動）

テーマ：病院救命士を有する医療機関とMCの関わりについて

座長：佐藤友子（済生会熊本病院）、古賀 司（米盛病院）

パネリストと演題：

▷病院救急救命士の研修体制構築への取り組み 齋藤汐海（宇治徳洲会病院）

▷訪問診療クリニックに所属する救急救命士が機能した搬送症例 池田優介（大江戸江東クリニック）

▷医療機関で勤務する救急救命士とMCとの関わりについて 古賀司（米盛病院）

▷三次医療機関で働く救急救命士とメディカルコントロールの関わり 佐藤友子（済生会熊本病院）

▷救急救命士の社会的強みは認知されていない 西岡和男（熊本市民病院）

### ■16:00 次回会長挨拶・閉会の言葉 閉会

## 参加費



会 員：3,000円

非会員：5,000円

学 生：無料

オフィシャルサイトより  
事前登録が必要です

## 救急救命士ジャーナル 第6号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第6号のお知らせです。今号も皆様に興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

一般社団法人  
日本救急救命学会準機関誌  
Journal for Emergency Life-Saving Technician

救急救命士が作る  
救急救命士のための



# 救急救命士 ジャーナル

年4回発行  
編集発行人/佐藤 枢 発行所/株式会社へるす出版

## 第6号の目次 (予定)

- ◆第8回日本救急救命学会学術集会  
プログラム・抄録集
- ◆進取果敢；全国各地、新たな取り組みを紹介！  
今回はオンライン講習について特集します
- ◆救急救命士図鑑；いろんな救急救命士をピックアップ 元警察機関の救急救命士
- ◆巨人の肩の上に立つ；救急救命士が読み解く  
海外の最新論文

- ◆経験伝承；現場へ行くまでの準備
- ◆外傷病院前救護の現状 from JPTEC；開放性気胸
- ◆学会員の声 テーマは  
「初めて学術集会に参加したときの思い出」
- ◆投稿論文

2022年9月20日発行 定価1,650円(本体1,500円+税)  
へるす出版のサイトからご購入いただけます

## 救急救命士ジャーナル投稿論文を振り返る

救急救命士ジャーナル第5号には投稿論文「福岡範恭：救急救命士のキャリア形成志向とバーンアウトの関係」が掲載されました。

内容は次のとおりです。

---\*---\*---

消防機関で働く救急救命士に対して専門職としてのキャリア形成志向とバーンアウトの関係を検討した。方法はWebアンケートにより取得したデータ

(n=190) から、キャリア非形成者群、消防組織内キャリア形成者群、消防組織外キャリア形成者群の3群に分類し分析を行った。バーンアウト下位尺度の得点平均(情緒的消耗感、個人的達成感の低下、脱人格化)で3群の得点平均に有意差(p<0.001)が認められた。キャリア形成志向よりもキャリア非形成志向の救急救命士ほどバーンアウトに至る可能性がある。また、消防機関に属する救急救命士のバーンアウトは、個人的達成感の低下を基調としていることが示唆される。

---\*---\*---

救急救命士が生涯教育として取り組む内容は、病院実習や症例検討会、様々な団体が企画した実践技能コースなどがあります。特にJPTECやICLS,PSLS,PEM ECといったアルファベットの並ぶ教育コースは参加しやすく、教材や講習内容も画一的で他の職場や業種の

方との交流もあって人気です。ただ、管轄する地域ではこういったコースに恵まれていない地域もあり、キャリア形成に課題があります。印象としては、これらの教育コースに全国どこからでも積極的に参加している方は、消防組織外でキャリア形成を考える者に変貌していくのが自然の成り行きに思えます。そもそも、そういう素質を持ち合わせる方が消防組織外でキャリア形成をしていくという考え方もあるのでしょうか。

ただ、これら教育コースに積極的に参加してきたものの、職場での理解や評価を得られず、個人的達成感の低下、ひいては情緒的消耗感を主体としたバーンアウトへ至ると考察しています。経験上、キャリア形成を組織外で一生懸命構築してきたとしても、バーンアウトによりキャリア非形成志向へと変遷する人もたくさん見てきました。筆者は、キャリア形成志向よりもキャリア非形成志向の救急救命士ほど、職場内での批判だけでなく職場外でのキャリア形成もできなくなり、組織にとどまってしまうバーンアウトに至ると結論づけています。これらはもはや組織としての体質に課題があるようにも思います。自身がバーンアウトすることなく、同僚や部下に対しても理解しあえる環境づくりが大切であると感じかされました。

(T.Ichiryu)

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

### 1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英名は“Journal for Emergency Life-Saving Technician”とする。

### 2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

### 3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

### 4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

### 5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

### 6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

### 7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

#### 1) 総説

多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。

#### 2) 原著

論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。

#### 3) 調査・報告

独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。

#### 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

#### 5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

### 8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト（Microsoft® wordなど）にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

### 9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

### 10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

### 11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

### 12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

## 13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。

## 4) 文献記載例

<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 発行西暦年;  
巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.

- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名, 編者名, 書名.  
(巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況.  
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>  
(アクセス日: 2020.1.26)

## 14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人権を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。
- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。
- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

## 15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

## 16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

## 17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

## 18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

## 19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会  
オフィシャルサイト  
<https://www.jsels.com>



## 【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

## 【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

## 【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

—目次—

- 第1章 相手を感じる救急隊員の第一印象  
救急隊員の身だしなみ  
リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう
- 第2章 救急現場で遭遇する人たちとのコミュニケーション  
—ケーススタディ—  
Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー  
Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー  
Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション  
Episode III 加齢性難聴の傷病者とのコミュニケーション  
Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ  
Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者  
Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム  
入電情報に基づく隊員間の段取り  
現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない  
医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人とのアフターコミュニケーション  
引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション  
傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション  
救急隊のアフターコミュニケーション  
「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

- 1 日本語って難しい
- 2 微妙なお年頃
- 3 お母さん黙って…
- 4 女性を見る目はもともとない
- 5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

新型コロナの大きなうねりの中、全く行動制限の無い夏が過ぎました。連日の酷暑のおかげで熱中症の傷病者も発生し、熱発の傷病者と合わせると救急車の稼働状況はこれまでにない事態となりました。医療機関では患者の受け入れがとん挫し、病院の前で救急車が長蛇の列となる光景が毎日の報道で映し出されます。病院を引き上げて帰署できない救急車。相対的に救急車の数は底を尽きてきます。▶「救急隊員に食事をとらせてほしい」そんな行政のつぶやきがSNS上に投げられました。プレホスピタルの絶対的な守護神としての救急隊が「音を上げた」ようなこのセリフ。でもこれは救急車の適正利用を訴える上で会心の一撃といえるものでした。そして医療従事者側にも自分たちが本当のぎりぎりであることを自覚することができました。▶キャリア非形成志向の救急救命士ほどバーンアウトに至る可能性があるとの論文が掲載されました。消防で働く救急救命士は強固な意志で現場を戦い抜いて、その達成感を糧にしているのでしょうか。その崇高な意思は、ダイヤモンドのように固く輝くものであったとしても、実は脆く砕け散り儂く燃え尽きるものなのかもしれません。▶全国の医療従事者の皆さん、どうか求められたとしても自分のペースを貫いて本懐を全うしましょう。無理はいけません。もうちょっと頑張れるかなってところで一息つけば、そのちょっとがさらに長持ちしますよ。(T.Ichiryu)